

1,列強の同盟

1873年恐慌とその後の大不況→保護貿易体制⇒各国は世界市場・植民地をめぐり対立

()1同盟(1873)

ドイツ(ホーエンツォレルン)・オーストリア(ハプスブルク)・()2(ロマノフ)

普仏戦争後 ビスマルク→フランスの孤立化をめざす

()3同盟(1882) ドイツ・オーストリア・()4❖a

❖a---イタリアはチュニジアをめぐって北アフリカで()5との対立を強め奥に接近

1887年 ビスマルク→ロシアと()6条約❖b→露仏間の提携阻止のため

❖b---秘密条約。ロシアのブルガリア、バルカン進出とボスポラス占領を認める代わりにドイツの第三国との戦争にロシアの好意的中立を約す。

1890年 ビスマルク(1815~98)の引退→ヴィルヘルム2世(位1888~1918)がこの条約の延長を拒否

→ロシアとフランスは接近

1894年 ()7同盟結成⇒三国同盟と対抗・ビスマルク体制崩壊

イギリス---各地で他の列強と対立=東アジアでロシアに対抗→日本に着目

他国家と同盟をむすばない=「栄光ある孤立」=を捨て

1902年 ()8同盟(^1923)

┌戦時の中立・参戦

└英国のインド支配を認める代わりに日本の()9支配を承認

1904年 ()10協商❖c (フランスがイギリスとの関係改善をもとめる)

❖c---エジプトでのイギリスの優位とモロッコでのフランスの優位を相互に承認

┌イギリスの政策→3C政策 =カイロ・ケープタウン・カルカッタ

└ドイツの政策 →3B政策❖d =ベルリン・ビザンティウム・[]11

❖d---1899年ドイツは中東への進出のためオスマン帝国からバグダード鉄道敷設権を得た。

1905年 第1次()12事件

┌ドイツ皇帝タンジール港❖eに上陸⇒北アフリカへの進出のためモロッコにおけるフランスに挑む

└モロッコの領土保全・門戸開放を宣言、国際会議開催を要求

1906年 ()13❖f会議→欧米13カ国の大半はフランス支持⇒モロッコは仏の勢力圏化

❖e---タンジェ。モロッコ北部のジブラルタル海峡に面する国際都市。モロッコ事件後国際管理地域となる。

❖f---スペイン南部アンダルシアのジブラルタル海峡に近い町。西地中海交易の拠点の一つ。

1907年 ()14協商❖g

ドイツの中東への進出姿勢→イギリスとロシアの警戒と接近

❖g---イラン立憲革命に干渉しアフガニスタン、チベットでの利害を調整してドイツに対抗。

1911年 第二次モロッコ事件 モロッコの内乱に仏が出兵→アガティール=モロッコ南西部=にドイツ軍艦派遣

→翌年フェス条約によりフランス、スペインがモロッコを保護国化。

2,バルカン問題---「ヨーロッパの()15」

┌汎()16主義 ---ドイツ・オーストリア

ヴィルヘルム2世(位1888~1918)、フランツ=ヨーゼフ1世(位1848~1916)

└汎()17主義 ---ロシア

アレクサンドル3世(位1881~1894)、ニコライ2世(位1894~1917)

→バルカン半島における[]18帝国からの民族の独立支援・自国の進出

┌サン・ステファノ条約(1878年)❖h=露土戦争後 →ロシアの地中海進出が可能に

└ベルリン会議(1878年)❖i=ビスマルクの仲介

❖h---セルビア、モンテネグロ、ルーマニアの独立。大ブルガリア公国に英・奥の反対。

❖i---エーゲ海に面したブルガリアの領土を縮小しロシアの地中海への出口を封じた。南下阻止。

→ロシアは三帝同盟脱退

オーストリア→()19の行政権獲得

1908年 青年トルコ革命→混乱に乗じて()20がボスニア・ヘルツェヴィナを併合。

[ボスニア・ヘルツェゴヴィナ=南スラブ人=の宗教]

┌セルビア人---()21教徒。セルビアとの統一を望む

└クロアチア人---()22教徒。オーストリア・ハンガリー帝国のなかのクロアチア

との統一を望む。

┌ボシュニャク人---()23に改宗した南スラブ人。ボスニアを故地とする。

1911年 ()24戦争❖j(~1912)

❖j---リビアを巡る戦争。イタリアがオスマンから()25、キレナイカ等を獲得。

1912年 ()26同盟(セルビア・ブルガリア・モンテネグロ・ギリシャ)

→第一次バルカン戦争(~1913)→対オスマン。

ロンドン条約(1913)→獲得した領土(バルカン半島一帯とクレタ島)の配分をめぐり対立。

→第二次バルカン戦争(1913)→ブルガリア対ギリシャ・セルビア

┌セルビア勝利→大()27主義→()28との対立激化

└敗れてマケドニア、コソヴォ❖kなどを失ったブルガリア→ドイツ、オーストリアに接近

❖k---マケドニアはセルビアとギリシャへ、コソヴォはセルビアとモンテネグロにより分割。それらの地のスラブ系住民やアルバニア人の立場は無視され、のちの対立につながる。



ヴィルヘルム2世



フランツ・ヨーゼフ1世



ニコライ2世



バルカン半島(右下)



ボスニア・ヘルツェゴビナ

- ・日英 ・英仏 ・英露 ・露仏 ・伊土 ・朝鮮 ・三国 ・三帝 ・火薬庫 ・再保障 ・ロシア
- ・スラブ ・フランス ・イタリア ・セルビア ・モロッコ ・バルカン ・トリポリ ・ゲルマン
- ・イスラム ・ギリシャ正 ・カトリック ・アルヘシラス ・オーストリア(2) ・ボスニア=ヘルツェゴヴィナ